

【Microsoft 365】Microsoft 365 で利用可能な Copilot サービス概要

2026年10月30日

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2026年10月30日	初版発行

本書の内容は 2026/10/30 時点のものです。製品のアップデートにより変更となる場合がある旨、ご了承ください。

Agenda

1. 前提情報
   1. 本書の目的
   2. 用語集

2. Microsoft Copilot の基本動作
   1. Microsoft Copilot の基本動作

3. Microsoft Copilot
   1. Microsoft Copilot Chat (Basic)
   2. Microsoft 365 Copilot (Basic)
   3. Microsoft 365 Copilot (Premium)
   4. 使用量ベースの課金機能
   5. 比較表

4. Copilot Cowork
   1. 概要
   2. 課金方式
   3. 利用管理
   4. 有効化手順
   5. 利用開始時の考慮事項

5. Copilot Studio
   1. 概要
   2. 課金方式
   3. エージェント運用管理
   4. エージェント作成手順
   5. 利用開始時の考慮事項

6. セキュリティ
   1. Copilot のセキュリティとガバナンス
   2. 利用時の注意事項



1. 前提情報

1.1. 本書の目的

目的

本書は、Microsoft 365 領域の Copilot について、機能差、Microsoft Copilot Cowork（以降、Copilot Cowork）および Microsoft Copilot Studio （以降、Copilot Studio）の利用開始方法、セキュリティとガバナンス上の考慮事項を理解し、組織で安全かつ適切に導入・利用開始できるようになることを目的とします。

1.2. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
1	プロンプト	AI に対して質問や指示を入力するための自然言語による命令文。
2	Microsoft Graph	Microsoft 365 のメール、予定表、ファイル、会話などの組織データへアクセスするための統合 API。
3	Microsoft Entra ID	Microsoft 365 や Azure のユーザー認証とアクセス管理を行うクラウド型 ID 管理サービス。
4	大規模言語モデル（LLM）	大量の文章で学習し、自然言語の指示に対して文章を生成する AI モデル。
5	Copilot クレジット	Copilot の高度な AI 機能やエージェント利用時に消費される使用量ベース課金の単位。
6	事前購入のクレジット（事前購入プラン）	あらかじめ購入した Copilot クレジットを消費して利用する前払い方式。
7	既存のプリペイド容量	Microsoft 契約で保有している既存の前払い残高を利用する課金方式。
8	従量課金制	利用した分だけ料金が発生する Azure サブスクリプション連携型の課金方式。
9	サブスクリプション	一定期間の利用権を契約し、継続的にサービスを利用するための契約形態。

1.2. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
10	支出ポリシー	Copilot クレジットの利用対象、利用上限、請求方法などを管理するためのポリシー。
11	ノーコード・ローコード	プログラミングを行わず、または最小限のコードでアプリやエージェントを作成する開発手法。
12	Microsoft Purview	データ保護、コンプライアンス、ガバナンスを統合的に管理する Microsoft の統合サービス群。
13	ハルシネーション	生成 AI が事実ではない情報や不正確な内容をもっともらしく生成する現象。
14	Agent Map	組織内のエージェントの公開状況や接続先、所有者などを可視化する管理機能。
15	Enterprise Data Protection（EDP）	入力データや出力結果をモデル学習に利用せず、企業データを保護する仕組み。
16	データ損失防止（DLP）	機密情報や個人情報の漏えいを防止するためにデータ利用を制御する仕組み。
17	秘密度ラベル	データの機密性に応じて保護や利用制御を適用する分類ラベル。
18	保持ポリシー	データの保存期間や削除ルールを定義してライフサイクルを管理するポリシー。



2. Microsoft Copilot の基本動作

2.1. Microsoft Copilot の基本動作

Microsoft Copilot は、利用者が入力したプロンプトを基に、Microsoft 365 の組織データや Web 情報を取得し、利用者のアクセス権を考慮したうえで、AI モデルが回答やコンテンツを生成します。

1 プロンプト入力



利用者が知りたいことや実行したい内容を自然言語で入力します。

2 データの取得（Microsoft Graph）



組織データは Microsoft Graph、Web 情報は Bing 検索サービスを介して取得します。

3 アクセス権の確認



利用者のアクセス権を確認し、参照可能なデータのみを利用します。

4 AI モデルによる処理・生成



取得したデータとプロンプトを基に、大規模言語モデル（LLM）が回答やコンテンツを生成します。

5 結果の提示



生成された回答やコンテンツを、利用者に分かりやすく提示します。

POINT

Microsoft Copilot は、利用者のアクセス権を尊重しながら、組織データと Web 情報を活用して業務に役立つ回答やコンテンツを生成します。



3. Microsoft Copilot

3.1. Microsoft Copilot Chat (Basic)

Microsoft Copilot Chat (Basic) は、Web 情報やアップロードしたファイルを活用できる、組織向けの基本的な AI チャットサービスです。

位置づけ

Web 情報やアップロードしたファイルを活用できる、組織向けの AI チャット



利用条件

- 職場または学校アカウント（Microsoft Entra ID）
- 対象となる Microsoft 365 ライセンス

参照できるデータ

- **Web 情報**
  インターネット上の公開情報
- **チャットへアップロードしたファイル**
  PDF、Word、Excel など
- **一部の Microsoft 365 情報**
  Outlook や Teams の Copilot Chat 利用時

主な機能



AI チャット
自然言語で
質問・相談の入力が可能



文書作成・要約
文章の作成や
要約が可能



ファイル分析
アップロードした
ファイルの分析が可能

制限事項

- Microsoft Graph を利用した、組織データの横断的な活用は利用できません。
- Word、Excel、PowerPoint に組み込まれた高度な Copilot 機能は利用できません。

3.2. Microsoft 365 Copilot (Basic)

Microsoft 365 Copilot (Basic) は、Copilot Chat の機能に加え、Microsoft 365 アプリから利用できる組織向けの AI チャットです。

位置づけ

Microsoft Copilot Chat の機能に加え、Microsoft 365 アプリから利用できる組織向け AI チャット

Chat

Microsoft 365 アプリから利用可能

利用条件

- 職場または学校アカウント（Microsoft Entra ID）
- 対象となる Microsoft 365 ライセンス

参照できるデータ

Web 情報
インターネット上の公開情報

チャットへアップロードしたファイル
PDF、Word、Excel など

一部の Microsoft 365 情報
Outlook や Teams の Copilot Chat 利用時

主な機能

AI チャット
自然言語で質問・相談の入力が可能

文書作成・要約
文章の作成や要約が可能

ファイル分析
アップロードしたファイルの分析が可能

Microsoft 365 からの利用
標準アクセスで利用が可能

制限事項

- Microsoft Graph を利用した、組織データの横断的な活用は利用できません。
- Word、Excel、PowerPoint に組み込まれた高度な Copilot 機能は利用できません。

3.3. Microsoft 365 Copilot (Premium)

Microsoft 365 Copilot (Premium) は、Microsoft Graph による組織データ活用に加え、Word、Excel、PowerPoint、Outlook、Teams などの Microsoft 365 アプリケーションへ直接統合された生成 AI サービスです。

位置づけ

Microsoft Graph を活用して組織データを横断的に利用できる、Microsoft 365 向けの AI アシスタント



Chat



Microsoft 365 アプリから利用可能



組織データ

利用条件

- 職場または学校アカウント（Microsoft Entra ID）
- Microsoft 365 Copilot ライセンス
- 対象となる Microsoft 365 ライセンス

参照できるデータ

- Web 情報
- SharePoint
- チャットに追加したファイル
- OneDrive
- Outlook メール
- 会議情報・予定表
- Teams メッセージ
- アクセス権に基づく組織データ

主な機能

- AI チャット（質問・相談）
- Teams 会議支援
- 文書作成・要約
- Word・Excel・PowerPoint 支援
- ファイル分析
- エージェントの利用
- Outlook メール支援

制限事項

利用者がアクセス権を持たないデータにはアクセスできません。

3.4. 使用量ベースの課金

Copilot クレジットは、Microsoft Copilot の一部機能で利用される使用量ベース課金の仕組みです。エージェントや高度な AI 処理を実行する際に、利用量に応じて消費されます。

位置づけ

Copilot の一部の高度な機能やエージェントで利用される使用量ベース課金機能



利用条件

- 職場または学校アカウント（Microsoft Entra ID）
- Microsoft 365 Copilot ライセンス
  ※対象サービスに依存

対象サービス

Microsoft Copilot Cowork
Copilot Cowork が業務を実行

Microsoft Copilot Studio
エージェントの作成・運用

その他のエージェント
高度な AI 処理推論・分析など

主な機能

AI エージェントの実行
複雑なタスクを AI が実行

複数ステップのタスク実行
計画・調査・作成などを自動化

業務プロセスの自動化
定型業務を効率化

高度な AI 処理
高度な推論・分析を実行

支払方法

事前購入の Copilot クレジット
事前にクレジットを購入して利用

既存のプリペイド容量
既に保有している容量を利用

従量課金制
新規または既存の Azure サブスクリプションに関連付けて利用

制限事項

- 実行内容や利用する処理に応じて Copilot クレジットが消費されます。
- 利用量に応じて課金されるため、利用状況やコストの管理が重要です。

3.5. 比較表

Microsoft Copilot Chat（Basic）、Microsoft 365 Copilot（Basic）、Microsoft 365 Copilot（Premium）、使用量ベースの課金の各機能を一覧で比較します。

項目	Microsoft Copilot Chat (Basic)	Microsoft 365 Copilot (Basic)	Microsoft 365 Copilot (Premium)	使用量ベースの課金
位置づけ	Web 情報やアップロードしたファイルを活用できる組織向けの AI チャット	Copilot Chat に加え、Microsoft 365 アプリから利用できる組織向けの AI チャット	Microsoft Graph を活用して組織データを横断的に利用できる Microsoft 365 向けの AI アシスタント	エージェントや高度な AI 処理向けの使用量ベースの課金機能
利用条件・ライセンス	・職場または学校アカウント ・対象となる Microsoft 365 ライセンス	・職場または学校アカウント ・対象となる Microsoft 365 ライセンス	・職場または学校アカウント ・Microsoft 365 Copilot ライセンス ・対象となる Microsoft 365 ライセンス	・対象サービス Copilot Cowork、Copilot Studio など ・Copilot クレジットの設定 ・事前購入プランまたは従量課金制
主な利用場所	・Microsoft Copilot アプリ Web、デスクトップ、モバイル ・Edge の Copilot チャット	・Microsoft Copilot アプリ Web、デスクトップ、モバイル ・Microsoft 365 アプリ	・Microsoft Copilot アプリ Web、デスクトップ、モバイル ・Microsoft 365 アプリ	・Copilot Cowork ・Copilot Studio ・エージェント
参照できる情報	・Web 情報 ・チャットへアップロードしたファイル ・一部の Microsoft 365 情報 （Outlook や Teams の Copilot Chat 利用時）	・Web 情報 ・チャットへアップロードしたファイル ・一部の Microsoft 365 情報 （Outlook や Teams の Copilot Chat 利用時）	・Web 情報 ・Outlook メール ・Teams メッセージ ・SharePoint、OneDrive ・会議情報、予定表 ・Microsoft Graph 経由の組織データ	対象サービスに依存 （エージェントで接続されたデータソースなど）
データアクセス範囲	Web 情報とアップロードファイル	Web 情報とアップロードファイル	アクセス権に基づく Microsoft Graph を利用した組織データ	対象サービスに依存

最新の情報についてはこちらをご確認ください。



4. Copilot Cowork

4.1. 概要

Copilot Cowork は、Microsoft 365 の組織データやアプリを活用し、利用者から依頼された複数ステップのタスクを計画・実行する AI 機能です。

Copilot Cowork の動作イメージ

1 依頼

利用者がやりたいことを自然言語で依頼します。

2 計画

Copilot がタスクを複数のステップに分解し、実行計画を作成します。

3 実行

Microsoft 365 のアプリやデータを活用して、各ステップの作業を実行します。

4 完了

タスクの実行結果を利用者に提示します。必要に応じて調整します。

主な特徴

複数ステップの業務を自律的に実行

情報収集から成果物作成まで、複数の作業を計画・実行します。
※承認を伴う場合があります

Microsoft 365 データを活用

利用者が既にアクセス権を持つメール、会議、ファイル、メッセージなどのデータを活用して業務を支援します。

継続的な業務を実行・管理

定期的なタスクを継続して実行しながら、利用者が実行内容を確認・制御できます。

主な機能 詳細はこちらをご確認ください。

- メールの作成
- 会議設定・スケジュール調整
- 文書・資料・レポートの作成支援
- Teams への投稿
- 組織内の情報検索
- ファイルの管理
- 調査・情報整理
- 複数ステップのタスク実行・自動化 など

4.2. 課金方式

Copilot Cowork は、Microsoft 365 Copilot ライセンスに加えて、Copilot クレジットを利用した使用量ベース課金方式です。
実行した処理や利用した AI リソースに応じてクレジットが消費されます。

POINT Microsoft 365 Copilot ライセンスに加え、Copilot クレジットを利用した使用量ベース課金のため、利用前に適切な支払方法を設定しておく必要があります。

固定費（ライセンス料金）

Microsoft 365 Copilot ライセンス

Copilot Cowork を利用するためのベースとなるユーザー単位のサブスクリプションライセンスです。

POINT

- 対象ユーザーにライセンスを割り当てる
- 組織の Microsoft 365 環境で利用する

＋

Copilot クレジット（使用量ベース課金）

使用量ベース課金

Copilot Cowork の実行時に、処理内容に応じて Copilot クレジットが消費されます。使った分だけ課金される使用量ベースの課金モデルです。

POINT

- 実行内容に応じて消費量が変動する
- 複数ステップまたは計算負荷の高い処理では、クレジット消費量が増える場合がある

Copilot クレジットの支払方法

事前購入のクレジット（事前購入プラン）
事前にクレジットを購入して利用します。

既存のプリペイド容量
別途購入済みの対象容量がある場合に利用できます。
※Microsoft 365 管理センターのお使いの製品で保有状況を確認できます。

従量課金制
請求先として新規または既存の Azure サブスクリプションを関連付けます。

詳細はこちらをご確認ください。

4.3. 利用管理

Microsoft 365 管理センターのコスト管理より、Copilot Cowork を含む使用量ベースの AI サービスを一元的に管理します。
管理者は支出ポリシーを作成し、Copilot Cowork を利用できるユーザーまたはグループ、適用サービス、請求方法、支出上限などを設定できます。

POINT 支出ポリシーによって「誰が」「何を」「どこまで」「どの請求方法で」利用できるかを管理できます。

管理できる項目　詳細はこちらをご確認ください。

ポリシースコープの定義
Copilot Cowork を利用できるユーザーまたはグループを設定します。

エージェントとサービスの選択
ユーザーとグループがアクセスできるエージェントとサービスを選択します。

制限とアラートの設定
1か月あたりの使用制限やポリシーレベルのアラートのしきい値、通知について設定します。

モデルプロファイルの選択
支出ポリシーに適用できるモデルプロバイダーを選択します。

請求方法の選択
既定の支出ポリシーに関連付けられている請求方法が選択されます。

必要なロール　詳細はこちらをご確認ください。

グローバル管理者・課金管理者
ポリシーで請求方法の追加、選択、変更、および請求方法の設定が可能

AI 管理者・ライセンス管理者
支出ポリシーの編集、制限とアラート、請求方法の管理が可能
※支出ポリシーの作成は不可

4.4. 有効化手順

Copilot Cowork の有効化の流れは以下となります。 各手順の詳細については次のページ以降で説明します。

1 ライセンスの確認



Copilot Cowork を利用するユーザーが Copilot Cowork の利用資格を満たすライセンスを保有していることを確認します。

2 支出ポリシーを作成



利用対象ユーザーやグループ、エージェント、利用上限、モデルプロファイル、請求方法などを設定します。

3 Copilot Cowork をユーザーへ展開



Copilot のエージェント設定から、支出ポリシーで設定したユーザーまたはグループを指定して展開します。

4 Copilot Cowork 利用開始



Copilot Cowork を利用するユーザーは Copilot より Copilot Cowork の利用を開始します。

5 利用状況を監視



Microsoft 365 管理センターのコスト管理から、利用量やコストを継続的に確認します。

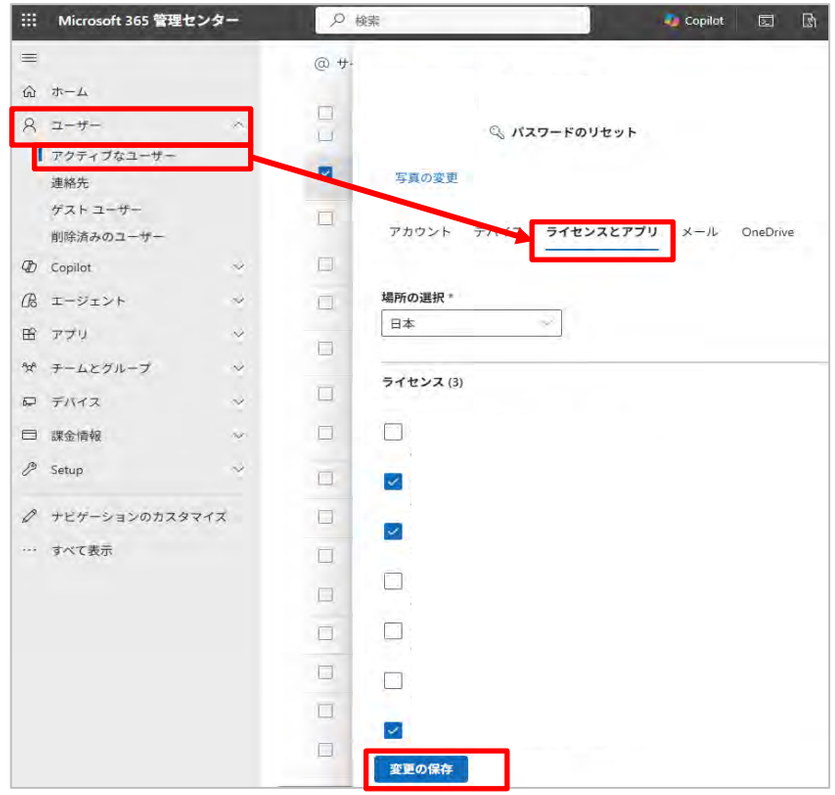
4.4. 有効化手順

Copilot Cowork を利用したいユーザーが Copilot Cowork の利用資格を満たすライセンスを保有していることを確認します。

1 ライセンスの確認 → 2 支出ポリシーを作成 → 3 Copilot Cowork をユーザーへ展開 → 4 Copilot Cowork 利用開始 → 5 利用状況を監視

手順

1. Microsoft 365 管理センターにサインイン
2. [ユーザー] > [アクティブなユーザー] を選択
3. Copilot Cowork を利用するユーザーを選択
4. [ライセンスとアプリ] より Copilot ライセンスを選択



4.4. 有効化手順

支出ポリシーで、利用対象ユーザーやグループ、エージェント、利用上限、モデルプロファイル、請求方法などを設定します。

1 ライセンスの確認 → 2 支出ポリシーを作成 → 3 Copilot Cowork をユーザーへ展開 → 4 Copilot Cowork 利用開始 → 5 利用状況を監視

手順

1. [Copilot] > [コスト管理] を選択
2. [構成] タブを選択し、[+ 支出ポリシーの追加] を選択
3. 支出ポリシーの追加ワークフローで次のセクションを完了
   - ポリシースコープを定義
   - エージェントとサービスを選択
   - 制限とアラートを設定
   - モデル プロファイルを選択
   - 請求方法を選択
   - ポリシーを確認して追加

詳細はこちらをご確認ください。



4.4. 有効化手順

Copilot のエージェント設定から、Copilot Cowork を支出ポリシーで設定したユーザーまたはグループに展開します。

1 ライセンスの確認 → 2 支出ポリシーを作成 → 3 Copilot Cowork をユーザーへ展開 → 4 Copilot Cowork 利用開始 → 5 利用状況を監視

手順

1. [エージェント] > [すべてのエージェント] を選択
2. 検索欄より、Copilot Cowork を検索
3. インストールを実施
4. [ユーザー] より [利用可能] を選択
5. Copilot Cowork を利用するユーザー（支出ポリシーで設定したユーザーまたはグループ）を選択
6. [保存] をクリック



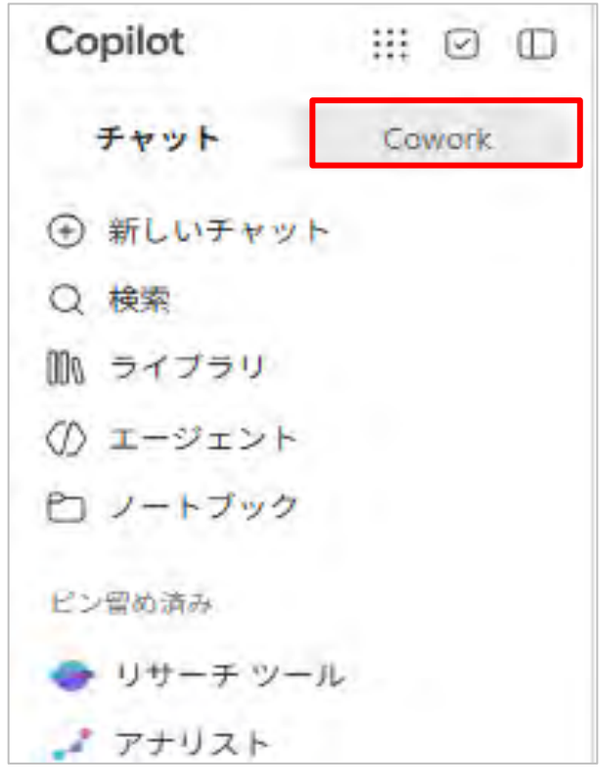
4.4. 有効化手順

Copilot Cowork を利用するユーザーは Copilot より Copilot Cowork の利用を開始します。

1 ライセンスの確認 → 2 支出ポリシーを作成 → 3 Copilot Cowork をユーザーへ展開 → **4 Copilot Cowork 利用開始** → 5 利用状況を監視

手順

1. Copilot にアクセス
2. 左上のナビゲーションより [Cowork] を選択
3. 選択後、利用を開始



4.4. 有効化手順

管理者は、Microsoft 365 管理センターのコスト管理から利用量やコストを継続的に確認します。

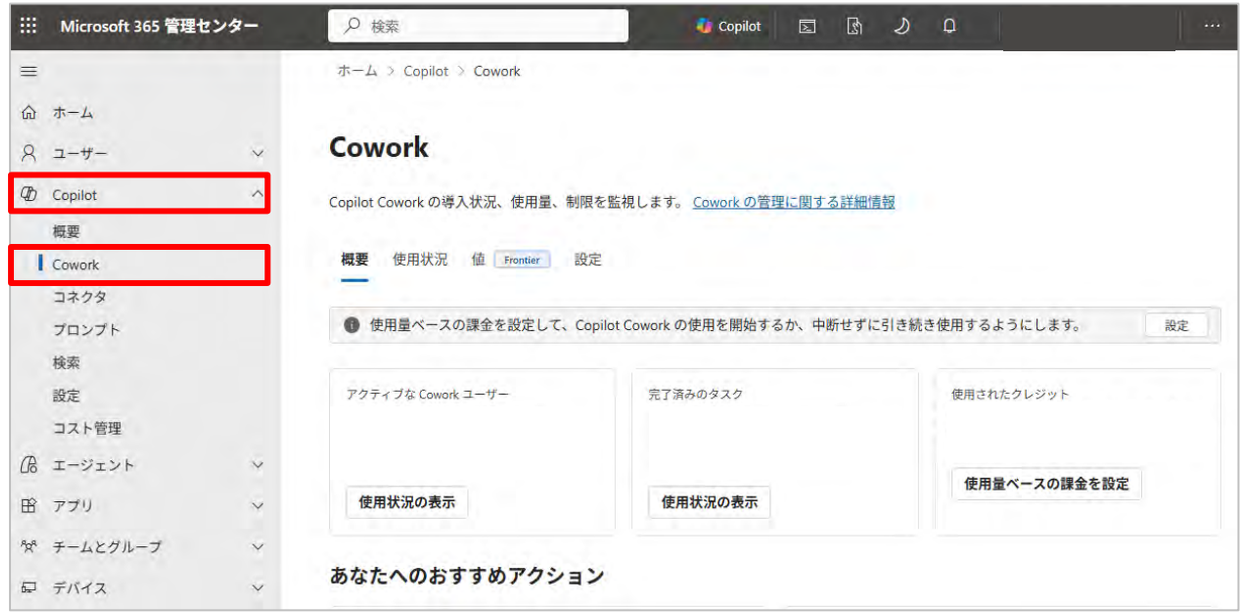
1 ライセンスの確認 → 2 支出ポリシーを作成 → 3 Copilot Cowork をユーザーへ展開 → 4 Copilot Cowork 利用開始 → 5 利用状況を監視

手順

1. Microsoft 365 管理センターにサインイン
2. [Copilot] > [Cowork] を選択

- **概要**：Copilot Cowork の導入と使用状況を一目で確認可能
- **使用状況**：主要なエンゲージメントインジケーターの確認が可能
- **値**：Copilot Cowork によるアシスト時間とタスクカテゴリの詳細が確認可能
- **設定**：組織で管理する Copilot Cowork のコントロールとポリシーにアクセス可能

詳細はこちらをご確認ください。



4.5. 利用開始時の考慮事項

本ページでは、Copilot Cowork を利用開始する際の考慮事項をまとめています。

利用対象と業務を限定する



複数アプリや複雑なステップをまたぐ業務を優先し、単純な質問・要約などは Microsoft 365 Copilot などで対応します。

コスト管理を事前に設計する



想定される利用料に応じて、適切なコスト管理の仕組み（対象ユーザーや支出上限など）を整えます。

実行アクションと承認を理解する



影響のある操作では、利用者の確認や承認が求められる場合があります。

データアクセスと過剰共有を確認する



Copilot Cowork は、アクセス権限のある組織内のデータを基にタスクを実行します。そのため、既存のアクセス権と共有設定を確認します。

モデル・接続先・自動化を管理する



利用可能なモデル、接続先、エージェントを適切に管理し、意図しない情報アクセスや外部連携を防止します。

継続実行されるタスクを管理する



スケジュール実行などの継続的な処理は、継続的にクレジットを消費する可能性があります。



5. Copilot Studio

5.1. 概要

Microsoft Copilot Studio は、ノーコードまたはローコードで AI エージェントを構築できる開発プラットフォームです。企業固有のナレッジや業務フローを活用したエージェントを作成し、Microsoft Teams や Microsoft 365 Copilot などへ公開できます。

Copilot Studio の動作イメージ

1 質問・依頼



利用者がチャットで質問やタスクを依頼します。

2 情報検索・計画



組織や接続されたデータを検索し、タスクを計画します。

3 データ取得・アクション実行



Microsoft 365 や外部システムと連携し、必要な情報の取得やアクションを実行します。

4 回答・完了



結果をまとめて利用者に回答します。必要に応じて追加の作業も実行します。

主な特徴

ノーコード・ローコードでエージェントを作成

自然言語やテンプレートを利用して、業務に合わせたエージェントを作成できます。

組織データを活用

組織のデータやドキュメントを活用したエージェントを作成できます。

多様なチャネルへ公開

作成したエージェントを Microsoft 365 Copilot、Teams、Web サイトなどへ公開できます。

主な機能

ナレッジの追加

SharePoint、OneDrive、Web サイトなどのデータソースを接続できます。

エージェントの作成

自然言語、テンプレート、ノーコード・ローコードを利用して業務向けエージェントを作成できます。

アクションの実行

Power Automate やコネクタを使用して、メール送信や業務処理などのアクションを実行できます。

外部システムとの連携

Microsoft 365 に加え、外部システムと連携できます。

公開・運用・分析

作成したエージェントを Teams や Microsoft 365 Copilot に公開し、利用状況を分析できます。

5.2. 課金方式

Microsoft Copilot Studio では、利用目的や運用方針に応じて 4 つの利用・課金モデルから最適な方式を選択できます。

項目	① Microsoft 365 Copilot	② Microsoft Copilot Studio 事前購入プラン	③ Microsoft Copilot Studio 従量課金制	④ Microsoft Copilot Studio 容量パック
概要	Microsoft 365 Copilot ライセンスをユーザー単位で契約し、ライセンスの範囲内でエージェントを利用する方法（定額）	1 年間の利用量を見込んで Copilot クレジットを事前購入する方法（前払い）	消費した Copilot クレジットに応じて料金を支払う方法（後払い）	Copilot クレジットを月間容量として事前購入する方法（前払い） ※月額 25,000 Copilot クレジットパック
必要なライセンスまたは契約	・Microsoft 365 Copilot ライセンス	・Microsoft Copilot Studio 事前購入プラン ・Azure サブスクリプション（※）	・Microsoft Copilot Studio 従量課金制 ・Azure サブスクリプション	・Copilot Studio プリペイド Copilot クレジット サブスクリプション
Azure サブスクリプション	不要	必要 ※支出ポリシーで事前購入した Copilot クレジットの範囲内に利用上限を設定することで、予期しない追加コストの発生を抑制できます。	必要	不要 超過分を従量課金制で自動請求する場合は必要
主な利用シーン	Microsoft 365 Copilot 内での業務用エージェントを利用したいケース	年間の利用量をある程度予測でき、予算を確保して計画的に運用したいケース	利用量が変動し、実際の利用量に合わせて柔軟に運用したいケース	月間利用量を見込んで、必要な容量を事前に確保したいケース

各ライセンスについては、こちらをご確認ください。

5.3. エージェント運用管理

Microsoft Copilot Studio では、作成したエージェントを安全かつ効果的に運用するために、エージェント、ナレッジ、接続先、公開先、利用状況などを管理できます。接続するデータや公開先を適切に管理することで、安全なエージェント運用を実現できます。

POINT

Copilot Studio では、「どのエージェントを」「どのデータや接続先で」「誰に公開し」「どのように利用されているか」を管理できます。

管理できる項目



エージェントの管理
作成したエージェントの一覧、所有者、編集権限などを管理します。



ナレッジ管理
接続するデータソースやナレッジの追加・更新・削除を管理します。



接続先・アクションの管理
利用可能なコネクタやアクション、外部システムとの連携を管理します。



公開範囲の管理
エージェントの公開先や利用できるユーザーを管理します。



利用状況の分析
エージェントの利用状況やパフォーマンスを確認し、改善に活用します。

5.4. エージェント作成手順

Copilot Studio でのエージェント作成の流れは以下となります。 各詳細な手順については次のページより説明します。

1 ライセンス・課金設定の確認



Copilot Studio を利用するユーザーが Copilot Studio の利用資格を満たすライセンスを保有していること、また、課金設定が完了していることを確認します。

2 エージェントを作成・構成



エージェント名や詳細を記入し、作成したいエージェントに合わせて各詳細設定をします。

3 テスト



作成したエージェントのテストをし、設定した通りの動作になるかを確認します。

4 利用者へ展開・利用開始



公開するチャネルを設定し、自身で該当のチャネルを開きます。その後、共有したいユーザーやグループにエージェントを共有します。

5 利用状況を分析・改善



評価や監視、Microsoft 365 管理センターを利用して利用状況やフィードバックを確認し、継続的に改善します。

5.4. エージェント作成手順

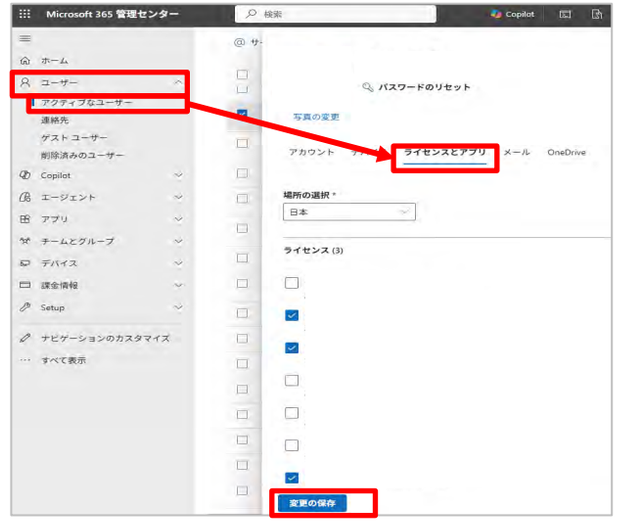
Copilot Studio を利用するユーザーが Copilot Studio の利用資格を満たすライセンスを保有していること、また、課金設定が完了していることを確認します。

1 ライセンスの確認 → 2 エージェントを作成・構成 → 3 テスト → 4 利用者へ展開・利用開始 → 5 利用状況を分析・改善

手順

ライセンスの確認

1. Microsoft 365 管理センターにサインイン
2. [ユーザー] > [アクティブなユーザー] を選択
3. Copilot Studio を利用するユーザーを選択
4. [ライセンスとアプリ] より Copilot ライセンスを選択





コスト管理の確認

1. [Copilot] > [コスト管理]を選択

5.4. エージェント作成手順

Copilot Studio にサインインをし、エージェント名や詳細を記入します。

1 ライセンスの確認 | 2 エージェントを作成・構成 | 3 テスト | 4 利用者へ展開・利用開始 | 5 利用状況を分析・改善

手順

1. Copilot Studio にサインイン
2. [エージェント] を選択
3. [新しいエージェント] のタブを選択
4. [エージェント（標準）] を選択
5. エージェント名やエージェント設定を入力し、[作成] を選択

※簡易的なエージェントは、Microsoft Copilot の Agent Builder から自然言語で作成することもできます。



5.4. エージェント作成手順

作成したいエージェントに合わせて、各詳細設定を行います。

1 ライセンスの確認 → 2 エージェントを作成・構成 → 3 テスト → 4 利用者へ展開・利用開始 → 5 利用状況を分析・改善

手順

1. [エージェントがプロビジョニングされました。] の表記に変わり次第、設定作業を開始
2. [詳細] を編集し、名前と説明を入力
3. [エージェントのモデルを選択します] よりエージェントのモデルを選択
4. [指示] を編集し、エージェントが担う役割やルールなどを入力
5. [ナレッジ] [ツール] [トリガー] [エージェント] [トピック] [推奨プロンプト] をニーズに合わせて適宜設定



5.4. エージェント作成手順

作成したエージェントのテストをし、設定した通りの動作になるかを確認します。

1 ライセンスの確認 → 2 エージェントを作成・構成 → 3 テスト → 4 利用者へ展開・利用開始 → 5 利用状況を分析・改善

手順

1. [エージェントをテストする] より、実際にチャットを入力し、動作を確認



5.4. エージェント作成手順

公開するチャネルを設定し、該当のチャネルよりエージェントを追加して公開します。その後、共有したいユーザーやグループにエージェントを共有します。

1 ライセンスの確認 → 2 エージェントを作成・構成 → 3 テスト → 4 利用者へ展開・利用開始 → 5 利用状況を分析・改善

手順

1. 動作に問題がない場合、[チャネル] にて公開先を設定
2. 設定した公開先（例：Microsoft Copilot や Teams）を開き、作成したエージェントを追加
3. Copilot Studio の画面に戻り、キャプチャ右上の、[公開] を選択
4. 追加した公開先から、共有したいユーザーやグループへエージェントを共有



5.4. エージェント作成手順

評価や監視、Microsoft 365 管理センターを利用して利用状況やフィードバックを確認し、継続的に改善します。

1 ライセンスの確認 → 2 エージェントを作成・構成 → 3 テスト → 4 利用者へ展開・利用開始 → 5 利用状況を分析・改善

手順

1. [評価] よりエージェントの動作を確認
2. [監視] より、エージェントのパフォーマンスを把握し、改善が必要な領域を特定

また、Microsoft 365 管理センターの[エージェント]にて、組織全体のエージェントを管理することができます。



5.5. 利用開始時の考慮事項

本ページでは、Copilot Studio を利用開始する際の考慮事項をまとめています。

エージェントの目的と対象業務を明確にする



FAQ、営業支援、ヘルプデスクなど、対象業務を明確にして設計します。

利用するデータとアクセス権を確認する



SharePoint や OneDrive などのデータソースとアクセス権を事前に確認します。

接続先や利用範囲を制御する



接続するシステムやアクションを確認し、必要な範囲でのみ利用できるように設定します。

公開範囲を適切に設定する



公開先や利用者を明確にし、必要なユーザーのみが利用できるようにします。

公開後も継続的に監視・改善する



監視機能や Agent Map を利用して利用状況や品質を確認し、継続的に改善します。



6.　セキュリティ

6.1. Copilot のセキュリティとガバナンス

Microsoft Copilot は、Microsoft によるセキュリティ対策と、組織によるガバナンスの両方によって保護されています。
組織のデータを安全に活用するため、Microsoft の保護機能と、Microsoft Purview を中心とした組織の管理を組み合わせることが重要です。

Microsoft による保護

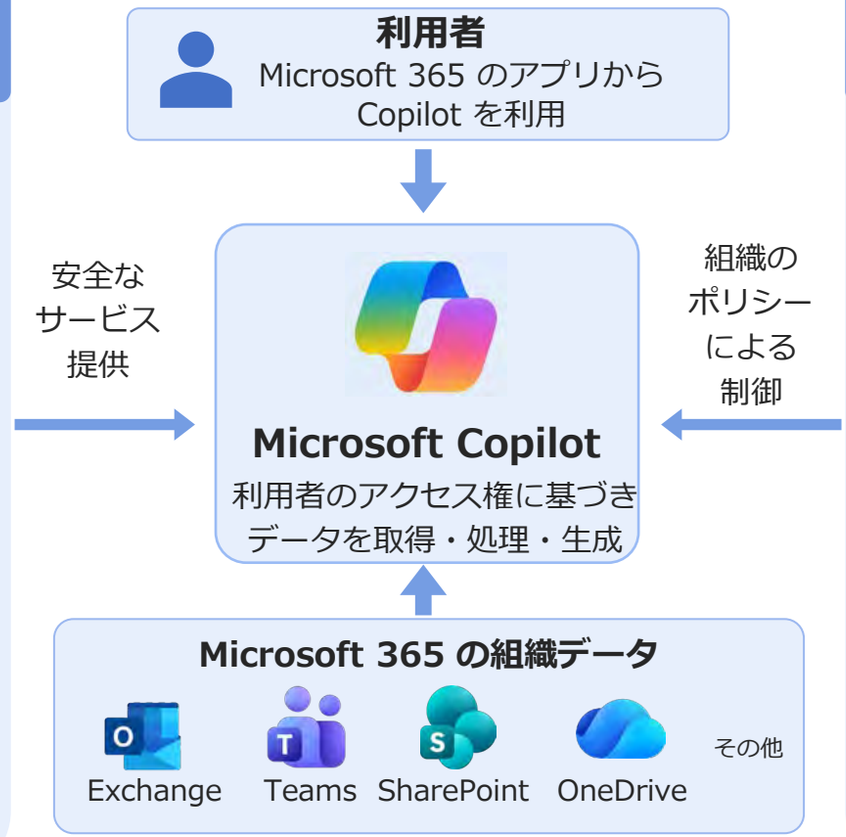
Microsoft のセキュリティ基盤でデータを保護

Enterprise Data Protection（EDP）
入力データは AI モデルの学習に使用しない
顧客のデータを厳格に保護

データの分離
テナント間でデータを分離
他の組織のデータにはアクセスしない

暗号化
保存時および転送時にデータを暗号化
Microsoft 365 のセキュリティ機能で保護

責任ある AI
AI の安全性・公平性・透明性に配慮
Microsoft の責任ある AI の原則に基づき運用



組織によるガバナンス

Microsoft Purview を中心にデータを保護・統制

Microsoft Purview
データの保護・コンプライアンス・
リスク管理を統合的に提供

データ損失防止 (DLP)
機密情報の検出と保護
Copilot での不適切なデータ送信を防止

秘密度ラベル
データの分類と保護
ラベルに応じた利用制御

監査とコンプライアンス
利用状況の監査ログを記録
保持ポリシーによりデータを管理

Microsoft Purview の詳細な設定については、こちらの資料をご確認ください。

6.2. 利用時の注意事項

Microsoft Copilot を安全かつ適切に利用するためには、データの共有設定、生成 AI の特性、組織の利用ルールを理解し、運用することが重要です。

1 過剰共有のリスクを確認する

アクセス権のあるデータを基に回答するため、過剰共有された情報が含まれていないかを確認します。

確認のポイント

SharePoint の共有設定
SharePoint
不要な人に共有されていないか

OneDrive の共有設定
OneDrive
社外共有が含まれていないか

ゲスト・外部ユーザーのアクセス
不要なアクセス権が付与されていないか

2 生成 AI の特性を理解する

生成 AI は便利なツールである反面、誤った情報や不正確な内容を出力する可能性があることを理解します。

主な注意点

ハルシネーションの可能性
常に正しい回答とは限らない

機密情報の取り扱いルールを確認する
利用が許可された情報のみ入力する

最終的な判断は人が行う
重要な業務では必ず確認する

3 組織の AI 利用ガイドラインを遵守する

組織のルールに従い、責任を持って Microsoft Copilot を利用します。

ガイドラインの例

利用可能な範囲
許可された用途でのみ利用する

機密情報の取り扱い
社内ルールに従って適切に管理する

利用者への周知・教育
正しい使い方を理解し、継続的に教育する